

2021年度 地域経済経営ネットワーク研究センター シンポジウム

11/18(木) 16:00-18:00 オンライン (Zoom) 共催：JICA 北海道

「北海道から SDGs」

新型コロナウイルス感染拡大の影響は、人々の暮らしを一変させ、様々な課題を突きつけました。これまで構築されてきた経済・社会の持続が困難であることが浮き彫りとなる中、SDGs（持続可能な開発目標）の存在意義が、これまで以上に増しているように思われます。今年度のシンポジウムでは、Think Globally、Act Locally（地球規模で考え、地域で行動する）の観点から、北海道からできるSDGsの取り組みについて一緒に考えてみたいと思います。北海道に根ざし国際協力に携わってきた公的機関、企業、NGOの方々に登壇していただきます。

講演：

「信頼で世界をつなぐ～JICAの国際協力と地域との連携～」 (JICA北海道 所長 石丸 卓)

「インド国におけるジャガイモ収穫機の普及実証」 (東洋農機株式会社 監査役 大橋 敏伸)

「教育・就労と車いす」 (特定非営利活動法人「飛んでけ！車いす」の会 代表 吉田 三千代)

登壇者紹介：

● JICA 北海道 所長 石丸 卓

江別市出身。海外経済協力基金(OECF)、国際協力銀行(JBIC)を経て、独立行政法人国際協力機構(JICA)ブラジル事務所次長、パナマ事務所長等を歴任。

JICA北海道では、政府開発援助の北海道における拠点として、開発途上国からの研修員の受入や、ボランティア事業、開発教育支援事業等を通じて地域の国際協力に対する理解促進に取り組んでいる。

● 東洋農機株式会社 監査役 大橋 敏伸

1948年北海道生まれ。1966年に東洋農機入社。開発部にてソイルコンディショニングシステム等の開発に従事し、2003年より執行役員営業本部長、取締役を歴任し、現在は監査役に就任している。同社では、畑作用の作業機械の製造・販売を行っており、ジャガイモ収穫機の国内シェア70%を誇る。2015年度より、JICA中小企業海外展開支援事業(現、中小企業・SDGsビジネス支援事業)に採択され、「ジャガイモ収穫普及に向けた普及・実証事業」を実施し、収穫技術移転や機械化普及のための基盤作りを促進。

● 特定非営利活動法人「飛んでけ！車いす」の会 代表 吉田 三千代

NPO「飛んでけ！車いすの会」を1998年に設立。国内で使われなくなった車いすを集めて修理をし、これまでに3100台以上の車いすを東南アジアや中南米、アフリカなどの発展途上国に贈り続けている。同法人は、JICA草の根技術協力事業に採択され、インドネシア・バリ島にて車いすの整備・修理技術の移転を支援。2011年からはインドネシア、フィリピン、タイの3カ国の障がい児・障がい者や高齢者への支援を行うネイバーズの代表としても活動。

司会：

北海道大学大学院経済学研究院准教授 樋渡 雅人